

東海支部 第34回東海地区高等学校化学研究発表交流会

東海地区高等学校 化学研究発表交流会とは

毎年文化の日に開催されてきた日本化学会東海支部ならびに同化学教育協議会が主催する「東海地区高等学校化学研究発表交流会」は今回で第34回を数えました。令和7年11月3日(月・祝日)に、三重大学医学部臨床第二講義室において、開催しました。

愛知・三重・岐阜・静岡・長野各県および名古屋市の教育委員会と三重大学からの後援と東亞合成株式会社より協賛をいただき、東海4県の高等学校から7件と関東支部交換交流校1件の合わせて8件の研究発表が行われました。参加者は高校生、高校教員、大学教員など54名でした。この交流会には毎年多数の高校生が参加しており、研究発表を通じて化学に興味がある高校生の学校間交流とともに、高大教員の相互理解と連携を推進しています。各発表に対して、他校の生徒からの積極的な質問に加え、大学教員からの講評によって研究をより深める機会になっています。

近年では、愛知県とそれ以外の県で交互に開催されており、発表件数は例年10件ほどで、関東支部の化学クラブ研究発表会を経て参加した高校のエキシビジョンが加わり、支部間の交流の場にもなっています。

優秀発表賞・奨励賞・討論賞

日本化学会東海支部の森田靖支部長の開会挨拶に続いて、研究成果が発表15分、質疑4分の持ち時間で発表されました。質疑では、他校の生徒からの積極的な質問とそれに対する応答が行われ、そのうち大学教員からの研究発表内容に関する講評が行われました。

発表終了後の審査によって、優秀発表賞3件、奨励賞4件が選ばれ、表彰状と副賞が各発表者に支部長から贈られました。優秀発表賞は次の3件です。「インジゴカルミンの酸性条件下における変色について」(愛知県立一宮高等学校)では、pHが-1以下の水溶液中でインジゴカルミンが新しい構造に変化することを報告しました。「ヨウ素時計反応における反応条件と反応速度の比較」(名古屋市立向陽高等学校)では、呈色した反応液を数時間～数日間放置した場合の脱色反応に対する試薬濃度依存性について報告しました。「飲料水中残留マイクロプラスチックの紫外線による分解」(岐阜県立岐阜高等学校)では、UV照射(254 nm)によるポリメタクリル酸メチル、ポリプロピレン、ポリエチレンの水溶液中の分解反応について報告しました。また、多くの優れた質疑を行った生徒3名には、討論賞が贈られました。

最後に森田靖支部長の全体講評に続いて、



会場の様子



優秀発表賞の表彰

て、日本化学会東海支部化学教育協議会の勝本明夫委員長から、化学への関心を持ち続けてほしいと熱い思いを込めた閉会挨拶で発表交流会は無事終了しました。

次回交流会に向けて

東海支部化学教育協議会では、これからの時代を担う高校生の化学的好奇心とチャレンジ精神を応援していくことで、彼ら・彼女らの成長を支援していきます。今回は、今回同様に発表校を一般募集し、本年秋に愛知県で開催する予定です。今後とも私どもの活動に一層のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

〔岡崎隆男 (三重大院工)〕

© 2026 The Chemical Society of Japan